



鈴木基夫
自由クラブ

ウェルビーイングの
推進について

問 イネーブリング・シテイの形成において、アートの介入も効果的と感じている。東京芸術大学との共創の取組について伺う。

答 人がまちに出たくなる、歩きたくなるまちづくりを目標に、東京芸術大学の桐山教授が進めるアートコミュニティケーションの創出や文化的処方、本市の取組にも共通する部分であり今後はアート介入の効果を大学と検討しながら進める。

問 イネーブリング・シテイ実現に向けた今後の進め方を伺う。

答 横浜市立大学との共同研究を基盤とし各部が自主性を持ち、横串的に推進する。地区ごとの幸福と健康に関する分析とイネーブリン

ング・ファクターの具現化とともに、アートコミュニティション共創など新たな可能性も検討しながら進める。

骨について

問 少子化対策の検査として、妊娠・出産・授乳に伴う母体の骨のケアの必要性や子ども健康診査に合わせた検査などどうか。

答 妊娠8か月頃の妊婦を対象に超音波による骨密度測定、食事指導と保健指導を実施し、骨密度が少ない方には、出産後、子供1歳8か月児健診の受診の際に骨密度を再検査する取組を準備している。



竹内滋泰
市政クラブ

未来につながる教育
について

問 蒲郡市の未来を担う子どもたちのための教育を中心に据えた、市の教育の更なる発展について市長の見解を伺う。

答 地区個別計画に基づく複合施設に関しては、様々な費用が高騰している状況ではあるが、計画に基づき着実に進めていくことで、子育て環境の充実や地域交流の活性化を図る。

問 教育振興基本計画の冒頭にある「学校を核としたまちづくり」を目指し、誰もが蒲郡で学んでよかつたと思える教育行政について教育長の見解を伺う。

答 コミュニティスクールや小中一貫教育の推進に取り組み、学校と家庭、地域が互いにパートナーとして、児

童生徒の健やかな成長を願い、連携・協働しながら教育活動を進めていくことが、全ての人の幸せにつながることを、今後も教育行政を進める。

市民病院の更なる飛躍
について

問 災害拠点病院の指定をうけ、市民病院はどう変わるのか。

答 市や関係団体とこれまで以上に広く、深い連携体制を構築しつつ、それぞれの持つ機能を最大限に活かせるよう、医療の中心的な拠点となり、市民の皆様の安心のよりどころとなれるような病院へと変貌していく。



授業風景



日恵野佳代
無会派・
日本共産党

市役所のハラスメント
実態調査と防止条例

問 他自治体で、市長を含め市役所のハラスメント報道が多発している。実態調査や防止条例の制定が必要では

答 本市でもハラスメントが起きている。消防職等は実態調査をしてきたが、本庁等の事務職も今年度の実施を検討する。条例制定の必要性を研究したい。

西浦、塩津地区の公共
施設の統廃合の設計

問 西浦や塩津地区は、公共施設の統廃合後、災害時の避難所となる

答 スファイア基準でトイレの数は男性1対女性3の割合が望ましい。予定数を伺う。

問 男性用小便器7、大便器4、女性用7、多目的2である。学校と公民館を一

体に建てる。文科省の指針では不審者を識別するよう対策を示している。防犯体制を伺う。

問 西浦地区は校舎に図書室がなく、公民館側にある。文科省の指針は、図書室は児童の活動範囲の中心的位置に計画することが重要としている。「公民館の図書室では遠い」という子どもたちの声を聞く姿勢があるのか

答 校舎に図書室があると地域利用に制約がかかるため、校舎に近い南側とし、教室の近くにも書庫を配置する。

